陳情第１０号

政府備蓄米の早期・確実な買戻しと買入を求める陳情

下記の者から別紙要旨による陳情書を受理したから、議会の審議に付する。

記

陳情者　　京都府京丹後市峰山町荒山 315-1

京丹後市農民組合

代表　引野　禎人

令和８年９月３日　提出

京丹後市議会議長　　中　野　勝　友

令和８年第６回京丹後市議会９月定例会
陳 情 文 書 表

１　件　　名　　政府備蓄米の早期・確実な買戻しと買入を求める陳情

２　受理年月日　　令和８年８月２６日

３　受 理 番 号　　第１０号

４　陳　情　者　　京都府京丹後市峰山町荒山 315-1

京丹後市農民組合

代表　引野　禎人

５　陳情の要旨等　　別紙のとおり

６　付託委員会　　産業建設常任委員会

受付
8.8.26
議会事務局
総務課

２０２６年　８月　２６　日

京丹後市議会議長

中野　勝友　殿

政府備蓄米の早期・確実な買戻しと買入を求める陳情

日頃より、市民の命と暮らし、食料・農業・地域を守るために奮闘されていることに敬意を表します。

２３年産米不足から始まった価格高騰で、政府は60万トンの政府備蓄米を放出しました。また、輸入米が20万ﾄﾝにまで急増し、２０万ﾄﾝ枠の２５年産備蓄米買入も中止したこと、飼料用・加工用米の主食転換、作況１０２の生産増などから、２５年産米の市場は供給過剰の状態になり、米不足により高騰していた価格も現在暴落しています。

市場まかせの米政策による米不足と価格高騰・暴落という現状から、２６年産米の収穫を前に、米農家は困惑し、不安は拡大しています。

また、高騰した２５年産米在庫が過大となり、卸など米穀事業者は困難な経営を続けています。

政府備蓄米は２０・２１年産の２９万トンで、わずか２週間分しかありません。政府はミニマムアクセス米を当然のように備蓄米として使用することを公言しています。

日本はアメリカの要求により米輸入を拡大し、財務省はミニマムアクセス（MA）米の備蓄や主食用途への利用を求めてきました。備蓄米を国産米で復元するのではなく、民間在庫とアメリカ米の備蓄に大きく変質させられようとしています。

このようなもとで、政府は主要食糧法の改正で「需要に応じた生産」として、生産者に主食用米の減産を押し付けようとしています。日本の米生産を持続可能なものにするため、２６年産米の価格暴落を阻止することが必要です。

以上の趣旨から、国と関係機関に対して下記事項について意見書を上げていただきますよう陳情します。

１、政府備蓄米３１万トンの買戻し、２９万トンの買入を早急に行い、備蓄水準を復元するとともに、需給環境を改善し、米価の安定をはかること。

陳情団体　京丹後市峰山町荒山315-1
京丹後市農民組合
代表　引野禎人 [redacted]
事務局長　安田政教 [redacted]